

「船乗りと観光」

社団法人日本船長協会会長

小島 茂氏



【略歴】

1969年川崎汽船(株)入社（三等航海士）、1974年二等航海士、1975年運輸省航海訓練所出向、1981年一等航海士、1990年船長、海務部労務課長、1999年船舶部安全管理グループ部長、2002年船員グループ長、2003年川崎汽船(株)退社、同年ケイラインシップマネジメント(株)業務部長、2008年常務取締役船舶本部長、2010年（社）日本船長協会副会長、2011年より現職。

●はじめに

日本船長協会、小島です。よろしくお願いいたします。今日の題は、「海事・観光立国フォーラム」ということで、前向き話をしなくてはいけないのですが、私は古い話から始めますので、お許し下さい。

題は「船乗りと観光」ということで、話をしたいと思います。船乗りになりまして、42年間、船乗りと、陸上勤務をやりました。いろいろな経験をさせてもらい、すごく楽しかったというのが私の実感です。これは余り大きな声で言えないんですけど、人生ずっと観光しているような気分で、今まで働いてきました。その辺の話をしたいと思います。

●船乗りとしての経験

～“海里”とは～

【距離表】資料でお渡ししました、一番最初のページの世界地図なのですが、これは「距離表」と言いまして、船が走る港と港、ポイントとポイントを結ぶ線が書いてあります。これらの線は船が走る航路です。それに距離が記されています。海里（マイル）で表されています。1マイルは1,852メートルです。この数字は、地球の北極点と赤道の表面の距離を1万キロメートルというふうに決めました。北緯90度で、1度が60分なので、 90×60 で5,400になります。1万キロメートルを5,400で割ると1,852メートルになります。それが1海里です。例えば24海里を1時間で走ると、スピード24ノットで走る船ということになります。今はどうかは分かりませんが、飛行機が1時間で走る距離は、大体船が1日で走るコンテナ船の距離ぐらいと頭に入れていました。この距離表は日本船長協会が発売しています。もしご購入希望の方は、後で言って下さい。

～時化た海と日本軍への慰霊～

【時化た海】次に楽しい話をしようと思いますが、誤解を生じますので、最初に海の時化具合の写真をまずお見せします。このくらい時化するんです。船酔いしないように、相当時化ます。これは北太平洋、これはタンカーです。これは鉱石船です。こ



れもタンカーです。驚かれたと思います。昨年の東日本大震災のときの津波とは違いまして。このような波が次から次に来るんです。アリューシャン列島の中なんですけれど、北太平洋が先程のように時化たときに、アリューシャン列島の西端にアッツ島といって、日本海軍が玉砕した島があります。そこを通るときに、おにぎり5つとお酒を2合海にそそぎます。慰霊をするということを戦後ずっとやっています。私もそれを継ぎました。さっきの様に時化たとき、アッツ島のところで、お

祈りした後、「すみません、お願いです」ということで、「少し海を静かにしてくれましたら、有難いのですが」と言うと、この様に静かになっちゃうんです（笑）。これ

は本当に全く風が無い状態です。こっちは雪をかぶっていて、あちらなんか、もう山が見えて、本当にありがたいなと思いました。

～ソマリア沖の自衛艦～

【ソマリア沖の自衛艦】これはソマリアに今、行ってもらっています護衛艦2隻と、それから哨戒機のP3Cです。一番下の写真は船が数隻でコンボイを組んで、ずっと護ってもらっているところです。写真をいただきました。護衛していただき本当にありがたいと思っています。また今日のニュースでは、派遣を1年間延長してくれるということです。

～海王丸での遠洋航海：ハワイでの出会い～

【海王丸】これは練習船の旧海王丸です。私が学校最後のときに乗った船です。1969年（昭和44年）この船で、私はカリフォルニアのサンディエゴとハワイのヒロというところに遠洋航海で行きました。アメリカ大陸を、初めてマストの上から見たときはやはり感激しました。ハワイに着いた日は、アポロ11号が月面着陸した同じ日の7月20日でした。ハワイでは日系2世の方達が40歳前後でして、練習船の生徒に広島県人とか岡山県人とか熊本とか、そういう移民の多い県の生徒はいないかと言って、いろいろお世話をしてくれました。私は広島県人じゃないんですけど、それに乗っかりまして、岩国の出身の方にお世話になりました。それで実はその後、文通したりしていました。88歳になったおばさんが「もうそろそろお迎えが来るから早く会いに来たらどうか。」ということで、去年の11月一緒にお世話になった友人と、ハワイのヒロに行って来ました。42年ぶりの再会でした。ヒロという町はあんまり変わりなく、古い日本が残っているような町でした。懐かしかったです。

～大島丸でアフリカ航路をまわる～



これは、私が最初に会社に入って乗った船です。大島丸といいました。小島が乗ったんですけど（笑）。それでアフリカ航路でした、西アフリカ航路といいまして、ケープタウンからずっとアンゴラとかカメルーン、コンゴ、ガーナ、象牙海岸、リベリアと回ってきました。クーラー設備のされていない船なんです。ナイジェリアでちょっとのし上げたりして、それと沖待ちで沖に1ヵ月程いました。水が不足してきました。

【コンゴ川地図】次にこれはコンゴ川、ニジェール川ともいいますコンゴ川をずっと上って、一番こっちのマタディという港で荷物を揚げるんですが、河口のバナナというところでパイロットさんが乗って、ボーマというところでまた乗り換えるのですが、「この人本当にパイロットかな」というようなおっさんが来まして、「任せなさい」ということで、マタディまで行きました。これはジャングルクルーズではないのですが、かなり狭いところをどんどん上って行きました。無事に出て来られました。

船乗りは、三等航海士か二等航海士のときに、大体皆、夢を見るんです。どんどん船が走っていて、浅いところにどこまでも走っていける夢を見て、もうこんな小川までこんな船が走れるのかなと思う夢を見ます。それですごい汗をかいて目が覚めるという夢を、友達なんかにも聞くと、同じような夢を見たということを書いていました。

5ヵ月航路だったんですが、この航海が終わって、日本に帰ってきたら、ちょうど大阪で万博が開かれていて、皆で行きました。アメリカ館とかヨーロッパ館はもうすごく一杯で入れなくて、唯一、空いていたのがアフリカ館でして、ナイジェリア館とかいろいろ行きました。ナイジェリア館で、向こうでちょっと教えてもらった歌をホステスさんの前で歌ったら、すごく受けまして、館長の部屋に通されました。「あなたはその歌がどういう意味か分かっていますか？」と言うから、「いや、分かりません」と言ったら、「その歌は女性の前で歌っちゃいけない歌です」と言われて（笑）、「気をつけます」ということでした。

【動物を運んだ船】これは私の乗った船ではないんですが、同じ時期に南アフリカのダーバンから動物をたくさん運んできた船の写真があったので、持ってきました。こちらはキリンで、となりがヒョウです。この他に、ゾウとかシマウマ、サイ、ダチョウ、あと何だったかな、まあいろんな動物を、動物園を新しく山口県で作るので、その動物達をダーバンから連れて来た写真です。

～プログラマーとしての陸上勤務～

【コンテナターミナル】これは少し話が飛ぶのですが、さっきの船の後、タンカーに乗って、その後「陸上勤務をしろ」ということで、コンピューター室というところ



15

ところに上がりました。東京の大井コンテナターミナルになるところがまだ埋め立て中のときでした。

「ターミナルが3年後に出来上がるので、そのためのターミナルの中のコンテナのハンドリングシステムをプログラムするのがお前の仕事だ」と言われて、「そんなコンピューターなんか分かりません」と言うと、「コンピューターは簡単に言うと、JRの駅の切符の券売機と一緒になんだ」と。「インプットがあってアウトプットがあるんだ。それ

でインプットはお金を入れて、行き先を入れる。アウトプットは切符とお釣りが出て来る。簡単だろ」と言うから、「そんな簡単なわけないでしょ」と。私から出たアウトプットはため息だったのです。3人のグループだったんですけど、結局2年半でプログラムを何とか仕上げて間に合いました。

ターミナルの図について、これは簡単に言いますと、図の下がコンテナ搬入のゲートで、「緑色のエリア」のところが、これから入って来る船に積むコンテナを置いておくところです。揚げる港ごとに、そして重い、中位、軽いというので分けて置いています。それを船がついたらガントリークレーンの下に持って行って船に積むわけです。「黄色のエリア」は、船から揚げられたコンテナを置いておくところです。それから「紫色のエリア」は空のコンテナを置くところです。真ん中辺りに冷凍コ

ンテナー置き場があります。次に「紫色のエリア」の空のコンテナをゲートから搬出して、それで工場等で荷物を詰めて、また戻ってゲートから搬入、それで「緑色のエリア」に置きます。一方船から揚げた「黄色いエリア」のコンテナは、搬入ゲートにシャーシのトラックが来て、運転手が「この番号のコンテナが欲しい」と言ったら、「あんたのコンテナはあそこにあるよ」というので、そこに運転して行って、トラックにトランスターナーでシャーシに積んでゲートアウトし、搬出します。こういう簡単なシステムなんですけれど、多分どこのコンテナターミナルも同じ様になっています。このプログラムの作成に2年半、3年かかったんですけれど、ターミナルはスタートしました。オープンして1ヵ月程はいろいろプログラムのエラーが出ました。落ち着いた後は船の強度計算をプログラムで組みました。GM（重心）トリム（前後の吃水）、それからベンディングモーメント（曲げ応力）とか、そっちのプログラムは、燃料タンク、バラストタンク（海水タンク）等のデータを入れ、また積まれたコンテナの各重量を入れれば計算できます。意外と楽しかったです。

【コンテナターミナルの機器】写真の一番上がガントリークレーンで、コンテナの揚げおろしにつかいます。真ん中の写真はトランスターナーと言う6列コンテナをこう横にまたいでいます。難しかったのは例えば一番下の青いコンテナを取りに来たときに、上の4つのコンテナをどういうふうに移動させて置くか、この辺が難しかったですね。下はトップリフターと言います。コンテナをひとつつり上げて走ります。コンピューター室には3年半いて、最後の3ヵ月前に忙しかったんですけど、結婚しました。

～青雲丸での遠洋航海～

【青雲丸】コンピューター室の勤務の後、コンテナ船にちょっと乗って、次に、これは航海訓練所の青雲丸に派遣で乗りました。1年程でしたが、楽しみました。遠洋航海で学生と一緒にシドニーとトンガに行きまして、トンガでは向こうのチームと実習生とでサッカーの試合をやりました。王様の宮殿の前の広場です。彼らはスパイクを履かずにボールを蹴ります。ヤツデみたいな足でカパーンと蹴ると、よく飛ぶんですね。試合は何とか学生のほうが勝ちました。その後、世界一周の遠洋航海もありまして、ロングビーチ、パナマ、バロセロナ、ベニス、スエズ運河を抜けてマレーシアのペナン、それで日本に帰ってきました。その頃はまだ燃料代が安かったので、練習船もいろいろなところに行けました。今は非常に厳しい状況です。

～2度目の陸上勤務：重量物船の集荷と配船～

【重量物運搬船】それから、また陸上勤務になりまして、重量物船の集荷と配船、採算の仕事をやりました。これは大きなパイプを積んでいるところです。ちょうどペルシャ湾というか、イランとかイラク、サウジ、あの辺は石油の値段が上がったので、お金持ちになって、いろいろなプラント等の設置を計画しました。そのプラントの機器類の貨物を日本から持って行ったんですけど、その1つにネカ発電所といいまして、イランのカスピ海近くの水力発電所のプラントを日本から持って行くということで、会社が海上輸送と内陸輸送、つまりトラックの方もコンバインで引き受けまして、私はイランのコーラムシャハールという港に行き、船から揚げた荷物をトラックに載せて、「カスピ海の近くのネカというところのサイトまで運びなさい」という仕事を3ヵ月程しました。ちょうどラマダンのときで、非常に暑くて大変だった思い出があ

ります。代理店の人と打合せしていたら、すぐ近くにあったモスクでテロがありまして大爆発音がありすぐに逃げました。20 人位亡くなったんですが、「大変なところに来てしまったなあ」と思いました。

～自動車船で世界一周～

また北米向けコンテナ船に乗って、そのあと自動車船に乗って世界一周、日本の自動車を積んでヨーロッパで揚げて、ヨーロッパのフォルクスワーゲン等をアメリカで揚げて日本に帰って来る。この写真はコンテナ船のほうで、サンフランシスコのゴールデンゲートの下をくぐっているところです。私は 1985 年から 89 年の 4 年間、カリフォルニアのロングビーチに駐在していました。アメリカ西岸の港で何かあったときにすぐ飛んで行くような仕事をしていました。【ホテルの



写真】これはサンフランシスコに行ったときの写真で、ちょっと話が飛ぶんですけど、このゴールデンゲートのところから 3 時間位上ったところに、ベニシアという港街がありまして、そこで自動車を揚げるアテンドに何回か行きました。

私がよく泊まったホテル、「ユニオンホテル」といって、かなり古いホテルで、実はこのベニシアというところは、今はサクラメントが州都になっているんですが、ゴールドラッシュの頃、この町が栄えて州都だったということでした。1848 年にジェームズさんがアメリカ川というところで、川の中で光る物を見つけて、その親分のサッターさんという人に、「こんなものを見つけたんだけど何だろう」と言ったら、「それは金だ」ということで、「内緒にしておこう」と言ったんですが、ジェームズさんが奥さんにちょっと喋っちゃったら、1 週間後に町中に知れ渡ってしまいました。それで 2 ヶ月後くらいにはアメリカの東部のほうまで話がたって、「金が取れた」ということで、ゴールドラッシュは始まりました。その頃栄えたところなんですけど、東部から幌馬車隊で来る人達、パナマまで船で行って陸路を通り、また太平洋側で船に乗り換えて、サンフランシスコに来る人達と、それからマゼラン海峡を通ってくる人達、3 つルートの人達がいたそうです。数年で 8 万人位来たと言っています。金が見つかった次の年の 1849 年に来た、彼等を「フォーティナイナーズ」というんです。これは、今はフットボールのチームの名前になりまして、「荒くれ者達」という意味です。その 2 年後の 1851 年に、その荒くれ者達の後を追って、「フィフティーファースト」といって、おばさん、いや、お姉さん達が彼らを目当てに来ました。金をたくさん拾った人は、このホテルに泊まっていたようです。このホテルで殺人事件が起きて、女の人が殺されたという部屋があって、その部屋は番号の他にその女性の名前がついていたかと思います。私は出張するとその部屋に泊まりました。幽霊が出るというので、いつ出るかなと思って楽しみにしていたのですが、結局出ませんでした。キャッシュをもっと持っていけば、出たかもしれないということだったんです。そういうことで駐在員のときは一生懸命仕事をしました。バンクーバー、シアトル、ポーランドの港も、よく行きました。

～LNG 船（液化天然ガス運搬船）～

【LNG 船】これは日本に帰ってきてから乗りました LNG 船（液化天然ガス運搬船）です。インドネシアと新潟を定期で運航していた船です。この後、労務課長をやりました。ちょうど緊急雇用対策が終わりかけていた頃なんですが、やはり労務というのは大変だったなと思います。一言、言いたかったのです。それからまた3年ほど船に乗りました。

～マニラの研修所～

【マニラの研修所】これはマニラの研修所です。フィリピン人船員がどんどん増えて、1994 年から2年間マニラの駐在をしました。採用と教育のほうの仕事をやっていました。ただ日本で緊急雇用対策をやってきて、フィリピン人にこういうふうに仕事を日本人から移していいのかなと、あんまりすっきりしない面も実はありました。フィリピンの話は配布した作文に書いてありますので、後で読んでみて下さい。

～LPG 船（液化石油ガス運搬船）～

【LPG 船】これは LPG 船（液化石油ガス運搬船）です。ペルシャ湾と日本の間を何回か乗りました。ペルシャ湾で沖待ちしているとき、いろいろな魚が釣れました。

～船長をしながらの世界観光～

【コンテナ船】これはコンテナ船が段々大きくなってきて、「スエズキャナルブリッジ」という船です。スエズ運河を通っている写真です。私はこれより小さめの船に、船長で乗ったんですが、私が乗ったときは東南アジアとヨーロッパの航路でした。これも楽しみました。ヨーロッパのビスケー湾はいつも風が強く時化られます。あとイギリスのフェリクストウという港で、今ではできないんですが、ロンドンまで行ってしまいました。大英博物館にどうしても行きたくて、ロゼッタストーンを手で直に触れたんですが、今は触れられないそうで、それを見たかったんです。大英博物館を走って回りました。それからフランス、ルアーブル港では出帆が1日延びたこともあり、駐在員の人に来て、「パリまで行きますか」というので、本当は行っちゃいけない距離ですが、行ってしまいました。今、ここで白状します（笑）。ノートルダム寺院を訪ね、礼拝堂に入ると天井がはるか高く、荘厳さに圧倒されました。ルーブルはもう閉まっていた。その後食事をして電車で帰りました。そのときに思ったのは、仕事が少なくなったら、旅行でいろいろなところに行ってみたいなと思いました。

●船乗りを経験して

～船員としての経験からおススメする、海に関する書籍～

（本の説明）本の宣伝ですが、プリントにも書いていますけど、『東インド会社とアジアの海』（講談社 歴史の興亡シリーズ 羽田 正 著）、これは非常に面白かったんで入れておきました。私は船をおりて、船舶管理会社で7年仕事をしました。インドにも何度も出張で行きました。ムンバイとかチェンナイ、昔のマドラスなんですけど、それからコーチンというところ、インド大陸南西のケララ州です。船員の学校をまわりました。それぞれの町が、また面白くて、ムンバイは商業都市という感じで、

それからチェンナイは東インド会社の大きな基地があったところで、コーチンはポルトガルからのユダヤ人が多く住んでいました。ユダヤ教会もありました。この本を読むとあまり大きな声で言えないんですが、やはりイギリスという国は、如何に植民地を増やしたかというか、搾取しながら大きくなっていったんだなというのがここに読み取れました。それからアジアの海の方の部分で、日本の平戸のオランダ人との混血の多くの娘さんたちは、オランダ領のバタビヤ（ジャワ）の方に行きました。1人はオランダ人と結婚し、すごく頑張ったおばさんの話が出てきました。面白いです。「オテンバ」という言葉はオランダ語だそうです。

次に「世界史を作った海賊」（ちくま新書 竹田 いさみ著）は、竹田先生といって去年船長協会の教養講座で話してくれた独協大学の先生の書いた本で、これはキャプテンドレイクの話がかなり入っています。エリザベス女王と国全体が本当に海賊のようだったところだったというふうに書いてあります。「太平洋の薔薇」は、小説なんです。海賊に乗っ取られた船の話です。「地名の世界地図」（文芸新書 21世紀研究会編）これはすごく面白くて、古本屋で200円で買ったんですけど、楽しい本です。これを読んでいると世界旅行したような気分になるような本です。おまけはジュール・ベルヌの「80日間世界一周」と「無人島に生きる16人」（新潮文庫 須川 邦彦著）です。

～陸からまわる世界観光～

【ロカ岬】2年前に、パック旅行をしました。ポルトガルのリスボンのちょっと北のロカ岬というところに行きました。これは感激でした。船でいつも沖を通っていたのですが、陸側から見て、石碑に書いてあるんですけど、「ここで陸が終わって、海が始まる」という言葉が、宮本輝さんの小説に出てきます。ロカ岬の事務所では「こ



こに来ました」という証明書を発行してくれます。是非行ってください。これはリスボンのエンリケ航海王子が先頭に、コロンブス、マゼラン、バスコ・ダ・ガマとか、ずっといって、ザビエルも下のほうにいました。これも立派なモニュメントでした。

【フラメンコ、セビリアのスケッチ】フラメンコです。これはセビリアで、月が出ていまして、ホテルのベランダでビール飲みながらちょっとスケッチをしました。写真もたくさん撮るん

ですが、スケッチも時々します。スケッチしておくとなんとなくその頃を思い出して、またビールを飲みたくなるんです。トルコや中央ヨーロッパにもパック旅行で行きました。楽しかったです。

～神戸とのかかわり～

この間、神戸博物館で「南蛮美術の光と影」という展覧会をやっていました。タイミングよく見ることができました。立派な南蛮船の屏風絵等を見ました。船に乗ってきた南蛮の人たちの顔の表情に興味がありました。



「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」です。大阪ベイの稲葉パイロットさんに、送っていただきました写真です。できたてのホヤホヤです。7月9日に神戸港に入ってきました。入港の写真です。それと乗客がずっと映っています。これは出帆のときの写真です。これから多くの客船が神戸に入港してくれれば、いいなと思います。

それから私は、最初の練習船も神戸から乗って、最初の会社の船も神戸から乗りました。神戸はすごく好きな港街です。

先月デンマークのコペンハーゲンに行きました。国際船長協会の総会が、コペンハーゲンであったんですけど、そこで東日本大震災のその後の港の復旧状態を報告しました。すでに「86%復旧していますよ」と、「来年の3月にはほとんど復旧します」ということもPRしてきました。それから放射線も全く問題ないですということをPRしてきました。コペンハーゲンは、私は初めて行ったんですけど、人魚姫を遊覧船で背中だけ見ました。それからすぐそばにマースクラインの本社、大きなビルがありました。「ああ、すごいな」と思いました。遊覧船のボートは「運河ツアー」というんですけど、操船が上手で狭いところを90度に曲がったりして、下りるときに船長に「上手ですね」と言ったら、マースクラインに昔勤めていた人なんだということで、「神戸にもよく行ったよ」と言っていました。

コペンハーゲンのデンマーク語の綴りは、København と書くんですね。最初のところがコーベンで「わあ、神戸だ」と思ってびっくりしまして、神戸の姉妹都市かなと思ったんですけど、姉妹都市じゃなくて、近くではラトビアのリガが姉妹都市だということでした。調べたら koben は「商業、マーケット」の意味で havn は「港」という意味だそうです。「港で栄える街」は神戸と一緒にです。

●終わりに

それから最後ですが、たまたまおととい読んでいた本で、田辺聖子さんが神戸のことを書いていました。「カモカのおじさん」のあのおばさんです。「神戸の町には真面目な顔は似合わない。この町は青空が似合う。いつでも微笑みのある顔が似合う」と書いてありまして、これを今日急遽メモしてきました。

どうも長くなりました。それで、私事なんですけど、私の新婚旅行は有馬温泉でした（笑）。どうもありがとうございました。

●質疑応答

【小島】 次回のフォーラムのときには、もっと前向きな、提案をするようなことを考えてきますのでよろしくお願いします。

【質問】 ちょっとつまらないことですが、あそこのところで何回ぐらいおにぎりを。

【小島】 おにぎりは私のとき5つとお酒の一合ビンと2本こういうふうにと、静かになりました。

【質問】 ご経験としては、何回ぐらいですか。

【小島】 あそこはかなり走りましたね。船長として7、8回ぐらいかと思います。

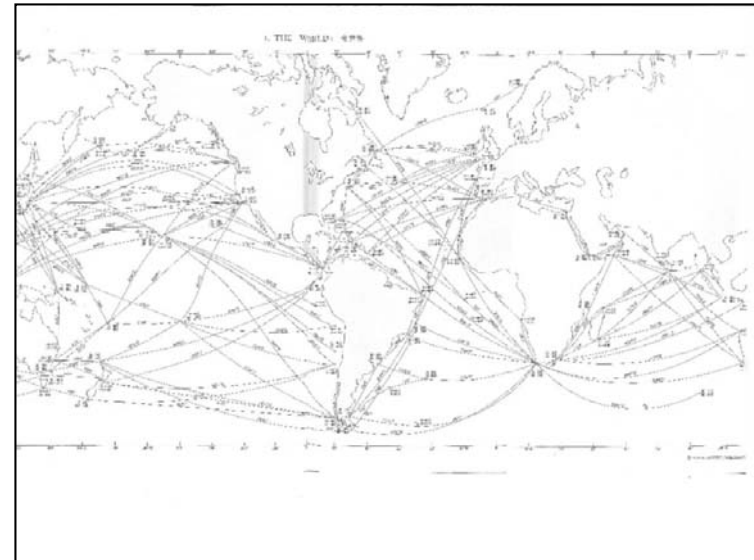
【質問】 ああ、そうですか、ありがとうございました。すいません、どうも。

講演者からの推薦図書

1. 「東インド会社とアジアの海」 講談社 歴史の興亡シリーズ 羽田正著
2. 「地名の世界地図」 文芸新書 21世紀研究会編
3. 「無人島に生きる十六人」 新潮文庫 須川 邦彦著
4. 「世界史をつくった海賊」 ちくま新書 竹田いさみ著
5. 「八十日間世界一周」 岩波文庫 ジュールヴェルヌ
6. 「太平洋の薔薇」 光文社文庫 笹本 稜平著

第12回海事・観光立国フォーラム in 神戸2012

1



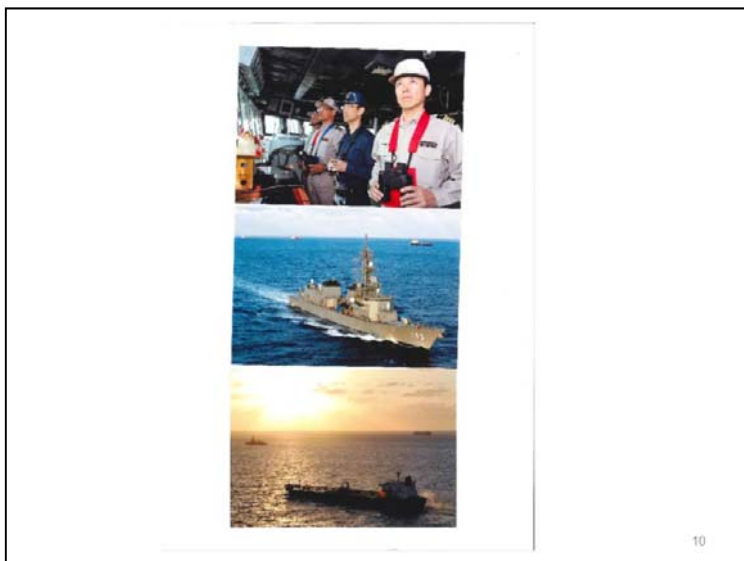
距離表



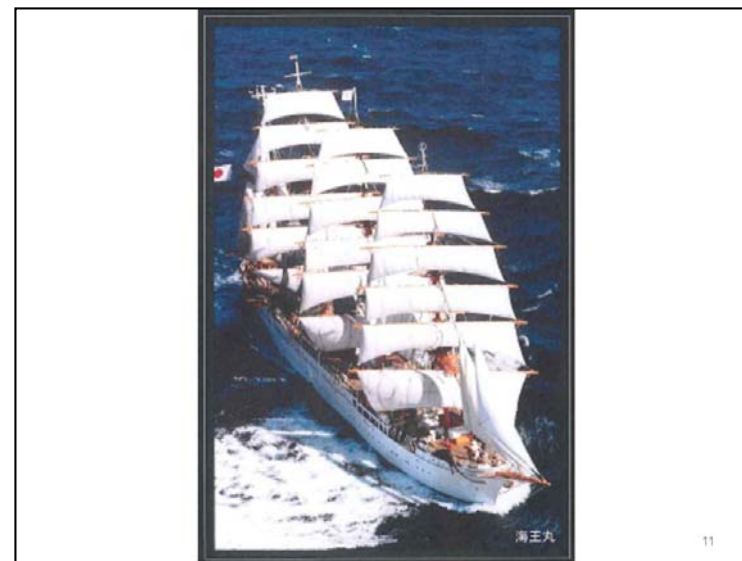
時化した海



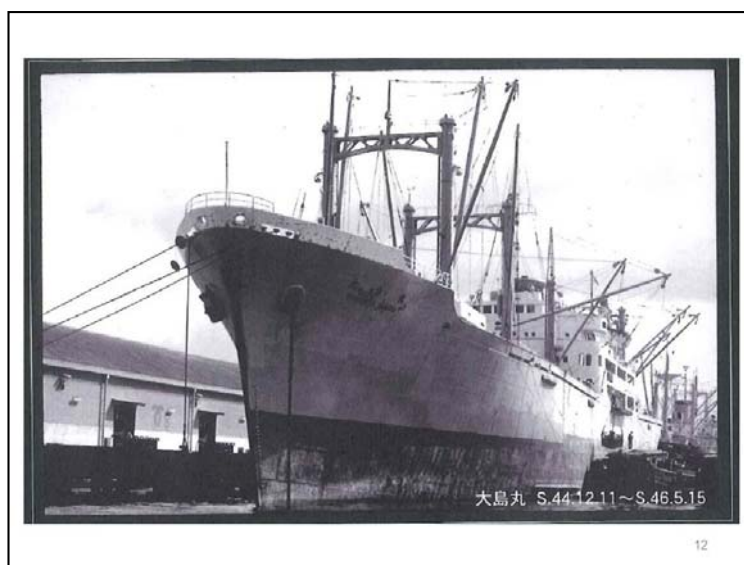
アリューシャン列島



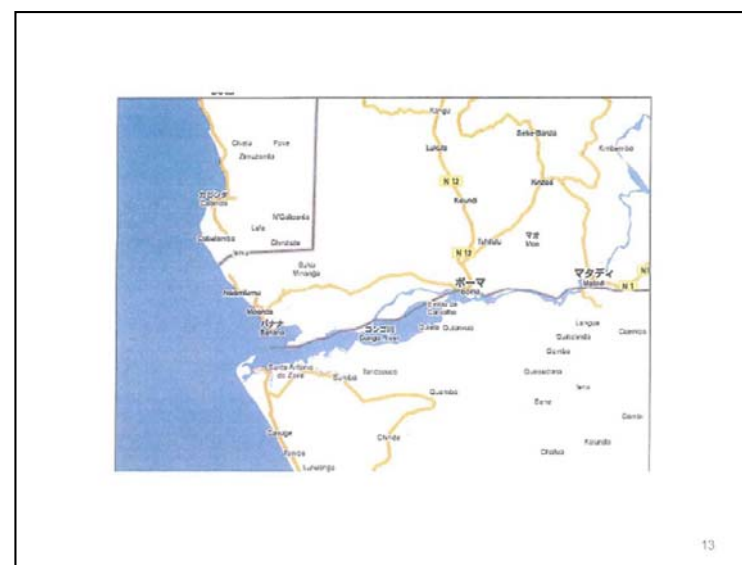
ソマリア沖の自衛艦



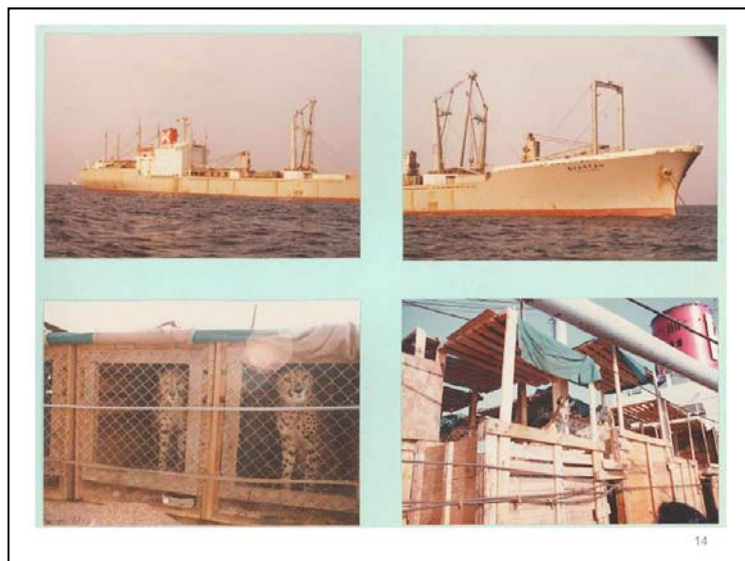
海王丸



大島丸



コンゴ川地図



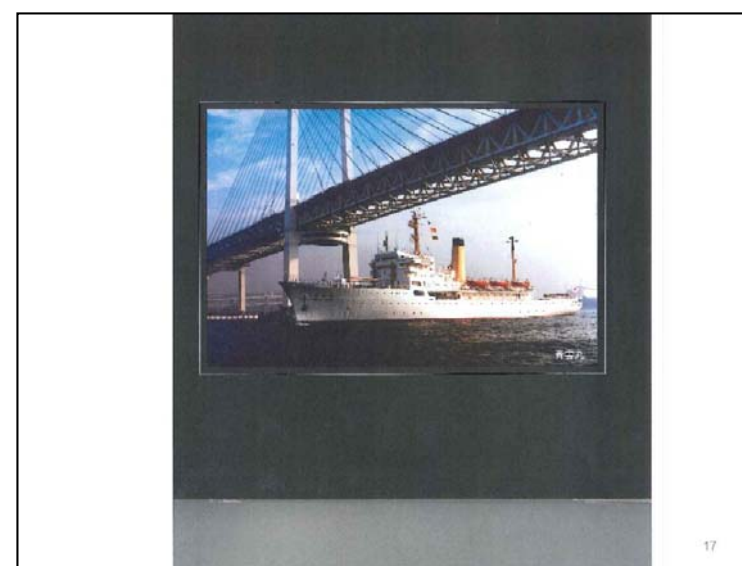
動物を運んだ船



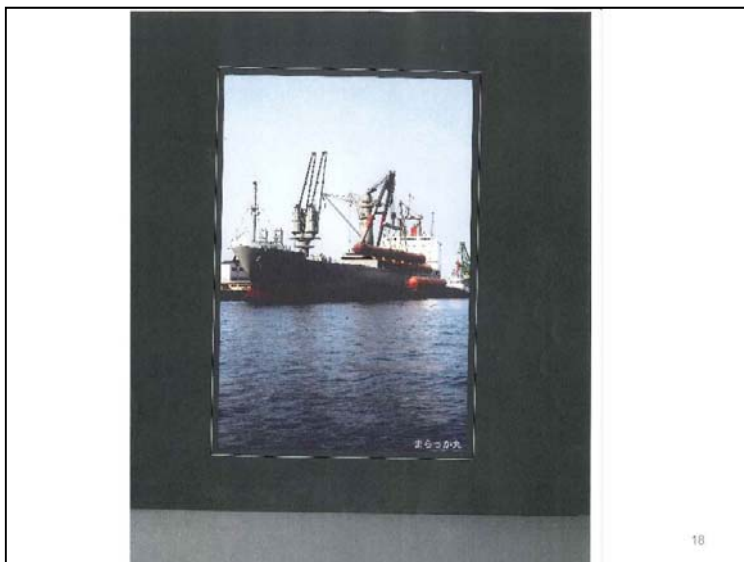
コンテナターミナル



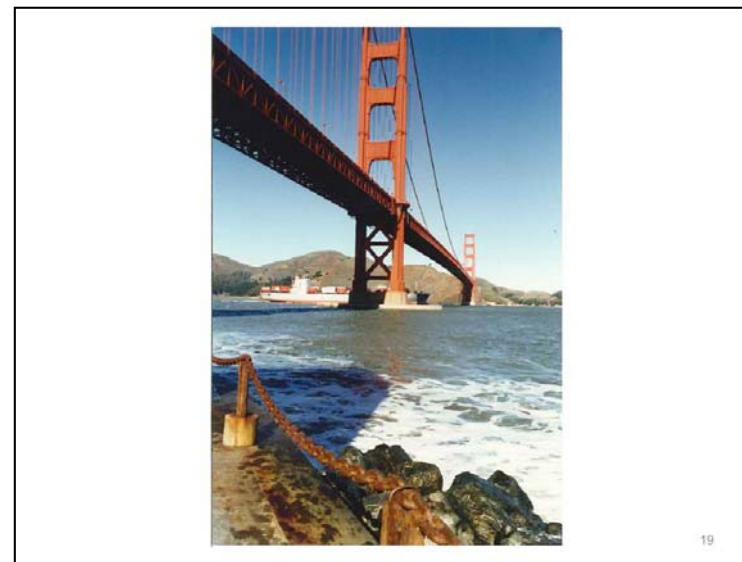
コンテナターミナルの機器



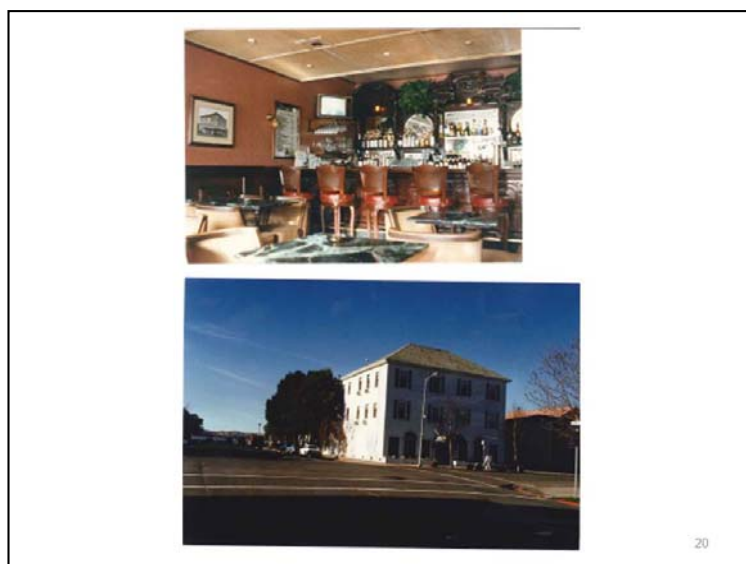
青雲丸



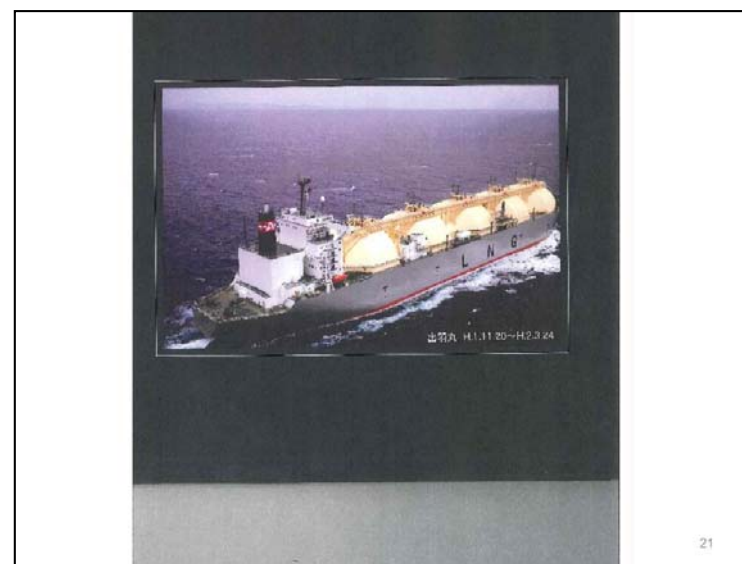
重量物運搬船



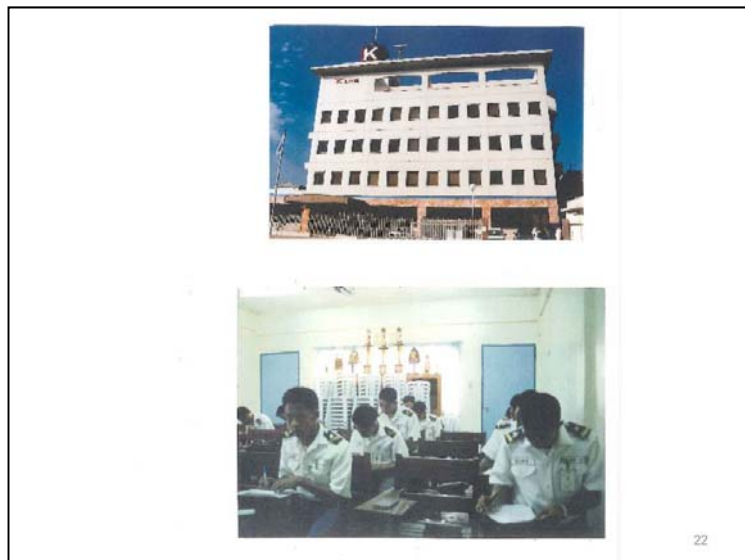
コンテナ船とゴールデンゲートブリッジ



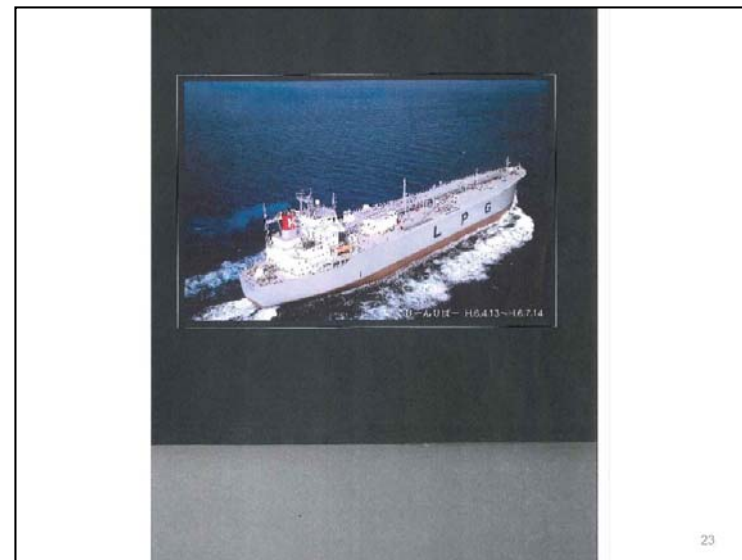
ホテルの写真



LNG船（液化天然ガス運搬船）



マニラの研修所



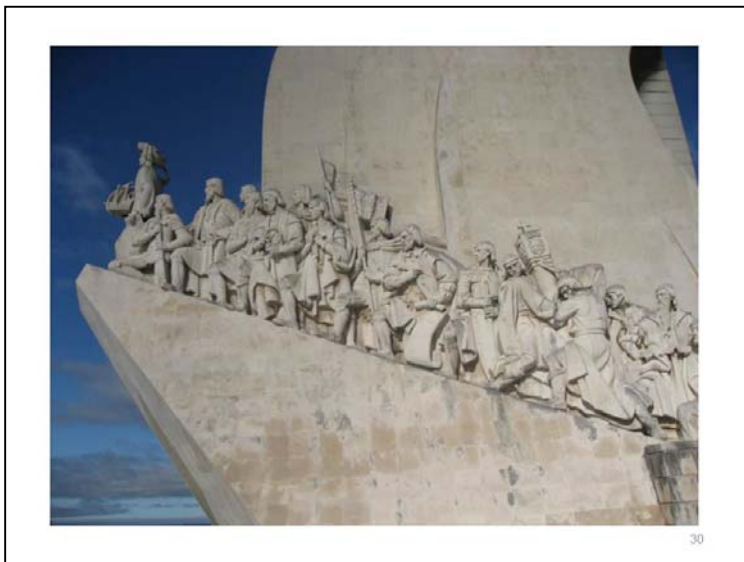
LPG船（液化石油ガス運搬船）



コンテナ船



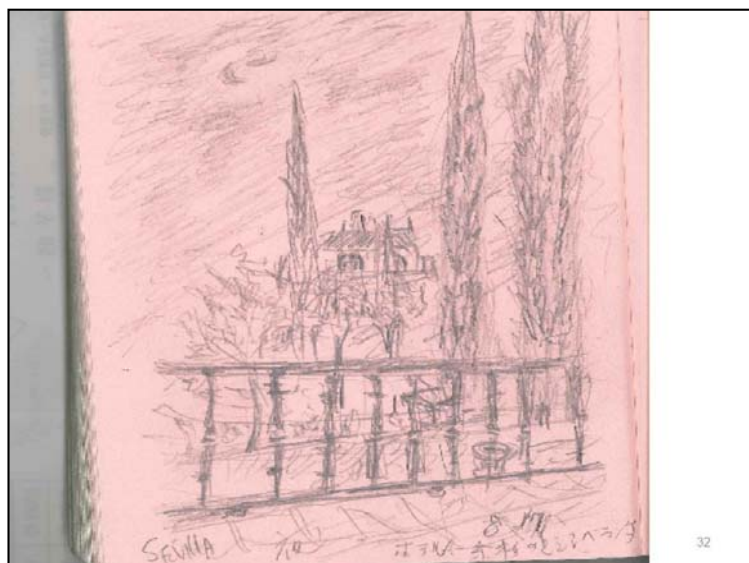
ロカ岬



リスボンのモニュメント



フラメンコ



セビリアのスケッチ



ボージャー・オブ・ザ・シーズ



手を振る乗客